

MPS Ver2.0.0 機能強化項目一覧

共通項目

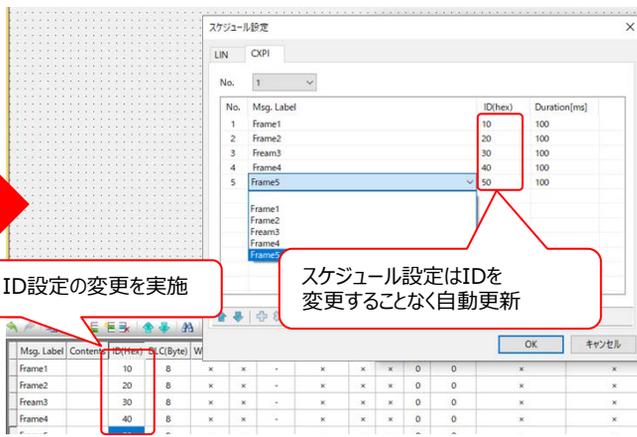
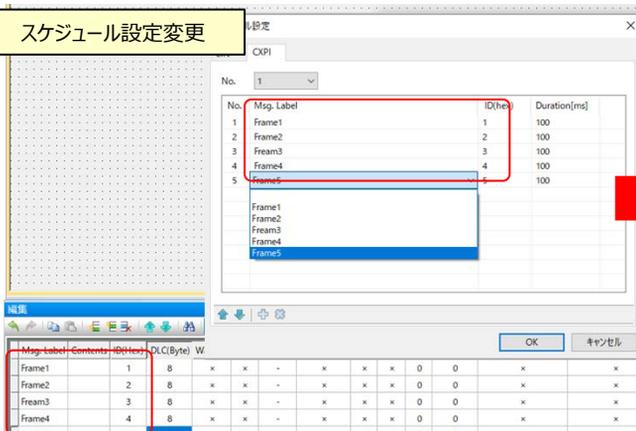
- **Windows10**に対応
- MLT Advanceの下記機能に対応
 - ・ポート入出力16ch対応しました。
 - ・ハードウェアを選択することでモデル等の選択をしなくても使用可能となりました。
- **ライセンス期限確認画面追加**
ライセンス期限をヘルプからご確認いただけるようになりました。
- **シナリオ機能強化**
 - ・記録精度の向上
操作データを100ms周期でスキャンし記録していましたが、コントロールの値が変化した時に操作データを記録する様、機能向上致しました。
 - ・途中再生機能追加
選択行からのシナリオ開始ができるようになりました。
- **MLTログファイル保存機能追加**
USB接続選択時にMLTログファイル(.dat)を保存できるようになりました。



MPS-CX ・ MPS-L

- **Msg.LabelとIDの連携機能**
設定済のスケジュール設定、特殊機能プロパティ設定において、BitAssignのIDを変更した時に各設定のIDが自動更新されるようになりました。

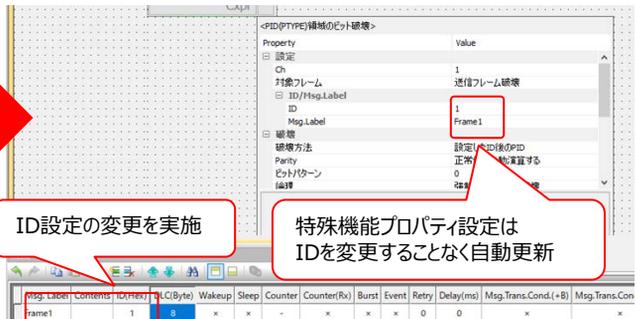
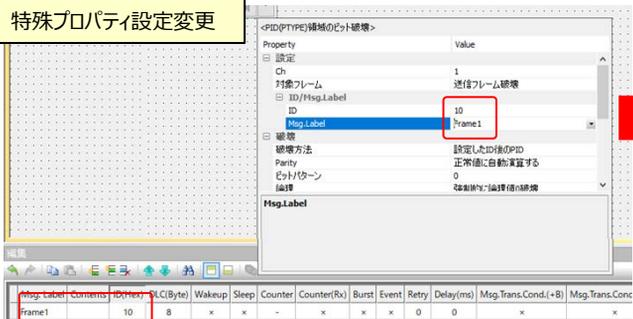
スケジュール設定変更



ID設定の変更を実施

スケジュール設定はIDを変更することなく自動更新

特殊プロパティ設定変更



ID設定の変更を実施

特殊機能プロパティ設定はIDを変更することなく自動更新

■ お問い合わせ

株式会社プリズム 〒446-0073 愛知県安城市篠目町1-11-15

担当: 杉浦 久美子 sugiura@prism-arts.co.jp TEL: 0566-74-4441



MPS Ver2.0.0 機能強化項目一覧

MPS-CX-OP-CONF ※MLT Advanceのみ対応

- 破壊処理テーブル数の増加 (9 ⇒ 20)
- Wakeupパルス出力設定 (既存機能はそのままで新規機能として追加)

<【高度な設定】PID(TYPE)領域のビット破壊>

Property	Value
設定	
Ch	1
パターン	
対象フレーム	通常破壊
ID/Msg.Label	
ID	破壊処理テーブル番号No.1
Msg.Label	破壊処理テーブル番号No.2
破壊	破壊処理テーブル番号No.3
破壊方法	破壊処理テーブル番号No.4
Parity	破壊処理テーブル番号No.5
ビットパターン	破壊処理テーブル番号No.6
論理	破壊処理テーブル番号No.7
パターン	破壊処理テーブル番号No.8
	破壊処理テーブル番号No.9
	破壊処理テーブル番号No.10
	破壊処理テーブル番号No.11
	破壊処理テーブル番号No.12
	破壊処理テーブル番号No.13
	破壊処理テーブル番号No.14
	破壊処理テーブル番号No.15
	破壊処理テーブル番号No.16
	破壊処理テーブル番号No.17
	破壊処理テーブル番号No.18
	破壊処理テーブル番号No.19
	破壊処理テーブル番号No.20

<【高度な設定】Wakeupパルス出力>

Property	Value
設定	
Ch	1
Wakeupパルス幅	420
Wakeup出力回数	100
Wakeupパルス出力間隔	1000
Wakeupパルス再送間隔	100

Wakeupパルス幅：
1~4000.00us (分解能：0.01us)
Wakeupパルス出力間隔：
0~150000us (分解能：1us)

MPS-C ※MLT Advanceのみ対応

- CAN-FDに対応
- 異常エラー送信機能対応

<異常フレーム送信設定>

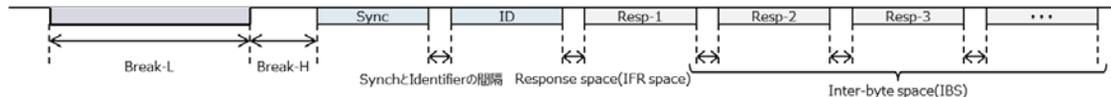
Property	Value
設定	
Ch	1
エラー設定	
種別	ACK無応答
その他エラー	
CRCエラー1	発生しない
CRCエラー2	発生しない
強制正常送信	発生しない
強制異常送信	発生しない
Stuff異常1	発生しない
Stuff異常2	発生しない
異常値送信1	発生しない
異常値送信2	発生しない
異常値送信3	発生しない
同期送信	発生しない

- ACKエラー
- CRCエラー
CRC または Stuff Count の最終ビットを反転
- 強制正常送信
ACK応答ノードが無くても強制的にACK送信し正常フレームにすることが可能
- 強制異常送信
ACK後のエラーフラグ送信することが可能
- Stuffエラー
ビットスタッフィングルール違反のフレーム送信が可能
- 異常値送信
SRR・RRS・r0/resの異常送信が可能
- 同期送信
SOF検出同期送信が可能

MPS-L ※MLT Advanceのみ対応

- 異常エラー送信機能対応

- 任意レスポンスデータ設定
9byteまで設定可能 (レスポンスデータ長異常に対応)
- IBS設定
IBS (Inter-byte space) を0~255Tbitで設定可能
- パリティエラー設定
- ヘッダフレームのビット破壊
synchフィールドのデータ・synchフィールドのストップビット・IDフィールドのデータ・IDフィールドのストップビット の4種類指定することが可能
- レスポンスフレームのビット破壊
IFS・データ・ストップビット・IBS の4種類指定することが可能



- スケジュール切替設定

スケジュール送信中に設定された切替条件を検出し、スケジュール送信を停止することなく、切替先のスケジュールテーブルの送信を継続

<スケジュール切替設定>

Property	Value
設定	
Ch	1
Schedule切替	
切替条件	SW押下で切替開始(無条件)
切替タイミング	即時/切替契機検出後
切替スケジュール選択	No.1
切替条件	
スケジュール選択	No.1
検出/パターン番号	1
パターン1	
ID/Msg.Label	
ID	0
Msg.Label	
データ長	1
データ	
1byte目	0
周期明数	1

